

政党助成金ためこむ

自民党の参院候補

細田博之衆院議長の「月100万円しかもらっていない」という発言や、「調査研究広報部費」(旧文通費)の使途公開問題など、国會議員への税金の支出のあり方が参院選を前に問われています。しかし、国會議員・政党にかかる税金で最大の分は、政党助成金です。政党助成金を使い残し、「基金」としてためこんだ自民党的参院候補者はいます。(藤沢忠明)

今回も立候補を予定官(東京)などが多額していふ議員が代表をの「基金」をためこんでいる議員が代表をの「基金」をためこんでいました。(表参照)「政党交付金使途等報告書」(2020年分)国庫1人当たり2500円を調べると山崎正昭元参院議長(福井)の約3015万円はじめ、山谷えり子元拉致担当相(比例)青山繁晴元外務副大臣(比例)宇都隆史元外務副大臣(比例)朝日健太郎元国交政務官(東京)小川克巳前参院厚労委員長(比例)水落敏栄日本郷族会会长(比例)阿達雅志元首相補佐官(比例)松川るい元防衛政務官(大阪)関口昌一元参院議員会長(埼玉)

磯崎官房副長官、朝日健太郎議員ら

2000万円超がズラリ

00万円の政党助成金を受け取っています。金の名で積み立て翌使途報告書による年繰り越すことを可能とする支部は、入会費や事務所費などに支出され残したお金を「基金」としてため込んでいます。政党助成金は余ったら国庫に返納する現金を受け取っていた鶏卵業者から多額の現金を受け取っているのです。

これが原則ですが、「基金」の名で積み立て翌年繰り越すことを可能としている政党助成法の「返納逃れ」を使っているのです。

このうち、使い残して2000万円以上を

「基金」としていたのが、片山大介・党国会議員団国対副委員長(兵庫)の1939万9050円

450万円

304万37円

200万円

このうち、使い残して2000万円以上を

「基金」としていたのが、片山大介・党国会議員団国対副委員長(兵庫)の1939万9050円など4人で

います。自民党議員

谷えり子元拉致担当相(比例)、青山繁晴元外務副大臣(比例)、宇都隆史元外務副大臣(比例)、朝日健太郎元国交政務官(東京)は、20年に党本部から5回にわたりて計13

おもな自民党参院選候補(現職)の政党助成金ため込み額

山谷えり子元拉致担当相(比例)	4312万1039円
青山繁晴元外務副大臣(比例)	4094万2920円
磯崎仁彦官房副長官(香川)	2980万8581円
宇都隆史元外務副大臣(比例)	2669万6601円
朝日健太郎元国交政務官(東京)	2367万2146円
小川克巳前参院厚労委員長(比例)	1875万8802円
水落敏栄日本郷族会会长(比例)	956万8506円
阿達雅志元首相補佐官(比例)	819万565円
松川るい元防衛政務官(大阪)	655万3161円
関口昌一元参院議員会長(埼玉)	525万7264円

《注》政党交付金使途等報告書で作成

維新候補も

日本維新の会参院選候補(現職)の政党助成金ため込み額(200万円以上)

片山大介 党国会議員団国対副委員長(兵庫)	1939万9050円
浅田均 党参院会長(大阪)	450万円
石井苗子 元キャスター(比例)	304万37円
高木佳保里 元堺市議(大阪)	200万円

《注》政党交付金使途等報告書(2020年分)で作成

参院選に立候補する現職議員も、自分が支部長を務める政党支部で、「基金」としてためこんでいます。維新の各議員は、党本部から250万円ずつ計1000万円の政党助成金を受け取っています。このうち、使い残して2000万円以上を「基金」としていたのが、片山大介・党国会議員団国対副委員長(兵庫)の1939万9050円など4人であります。(表参照)大阪選挙区の浅田均、高木佳保里両氏も含まれています。同様の「身を切る改革」もあやしいもので